

- ・留学期間：1 年次 春期
- ・所属学科：総合社会学科

はじめに、TRU 短期留学を無事に終わることができて嬉しく思います。ブッセル先生をはじめとした、短期留学に関わって頂いた先生方、ほんとうにありがとうございました。そしてこの留学に参加できたのは国際交流オフィスの方々のおかげです。また日本からカナダへの渡航が何事もなく無事にできたことは、JTB の方のおかげです。多くの関係者に感謝の気持ちでいっぱいです。留学という貴重な体験をさせて頂きほんとうにありがとうございました

素敵なお先生やホストファミリーに恵まれた

カナダでの生活で、ホストファミリーには、部屋や食事など、生活に関することでもとてもお世話になりました。英語でのコミュニケーションなので、うまく言葉が伝わらないこともあったのですが、真剣に聞いてくれました。親切なファミリーのおかげで、家での生活が安心かつ快適になりました。TRU の先生たちもとても優しく、親切でした。私のカナダ生活がとても快適かつ安全に過ごすことができました。また、カナダでは多くの時間を TRU で過ごしてきました。TRU では、授業はもちろん、アイスホッケーの試合の観戦やスキー、iDays などのイベントを楽しむことができました。そしてノラ先生やライリー先生にとっても感謝しています。ノラ先生のクラスで授業が受けられて本当に良かったです。

カナダ人のアイスホッケー熱に驚く

私はこの留学を通して、日本とカナダの違いをいくつか発見することができた。そのことについて少し話をしていきたい。まずは、カナダで観戦したアイスホッケーの試合で、日本と異なることに気づき、驚いたことから。それは、アイスホッケーに対する気持ちだ。私が訪れたカナダのカムループスでは、ほとんどの人がアイスホッケーの応援をしていたのだ。地域のほとんどの人々が一つになって応援をしている姿にこちらも興奮した。観戦した試合ではホームチームが勝った。そのため勝った瞬間の盛り上がり方に、私まで地元のファンのような気持ちになった。これこそが応援なのだと感じた。また会場には、地元チームのグッズが販売されていた。さらに、試合のない日でも、街中ではチームの帽子を被った人が歩いているのを見かけるほどであった。日本では、多くのスポーツが身近なために、なにか一つのスポーツを集中的に応援することは少ないように思う。代表的なスポーツをあげるとしたら、野球ファンとサッカーファンに分裂するだろう。このように一丸となるということに違いがあると考えた。また、小学生低学年くらいの子供たちが、おもちゃのスティックと柔らかいボールを使い、道でホッケーの遊びをしていたことから国民的スポーツと言えるだろう。

ウインタースポーツを満喫

スポーツに関係したことで、私はカナダでスノーボードをした。日本とカナダの違い、というよりかは、ゲレンデの違いによるものかも知れないが、雪の質が違うように感じた。カナダの雪はとてもふわふわしていて軽く滑ることができてとても気持ち良かった。その要因の一つとして、お客さんが少ないということがあると思う。日本のゲレンデは多くの人でにぎわっていることがほとんどなため、雪が固められてしまうからではと思った。また違う日には、チュービングというものを体験してきた。シンプルだが時間を忘れて遊ぶことができる。スピンを加えてもらうことによりスリルを味わうことができておもしろい。このようにカナダでは、ウインタースポーツを楽しむことができた。日本では恒例の雪だるまを作って遊ぶこともあった。カナダの人はあまり作らないのか、かなりいろんな人に見られていたので少し恥ずかしかった。

楽しかった授業

TRU では、カナダについて授業を受けた。私にはとても面白いことばかりだったため、三週間がほんの一瞬で過ぎてしまった。授業では、地理的なものや文化について学ぶことが多かった。地理的なものには、主要な都市名を覚えてクイズ形式で実際に声を出して、身体で覚えるということをした。そのため、ホストファミリーにディナーの時に授業の話をする、都市名のクイズが始まった。とても面白い家庭であった。間違えた回答をすると、正解を覚えるまで繰り返す。私にはそれがとてもおもしろかった。

TRU での文化についての授業で、カナディアンについて勉強をする機会があった。カナダに住む人は、カナダ以外の血が混ざっている人のほうが多いということを知った。確かに、街を少し歩いてみると、いろんな国の人の顔を見ることができ、異文化理解をするのには最高の国であると感じた。一度に様々な文化に触れることができるからだ。

冬なのに昼間は暑かった！

私がホームステイをしたお宅では、日本と同じく土足禁止であった。そのため玄関で靴を脱いで家にあがった。外国では、家の中も土足だと思っていたためカルチャーショックを隠せなかった。そしてカナダの気候に驚いた。朝起きると外は氷点下なのに、お昼過ぎには二十度を超えるような日もあった。スキー場で作った雪だるまがすぐ崩れていたことにも納得がいく。そのため服装選びがとても難しかった。しかし、気温の変化に慣れているカナダ人は半そでのシャツの上にコートを着るというスタイルでさすがだと感じた。私はパーカーを着てコートだったため、朝はいいものの、昼間はとても暑かった。まるで冬と夏が同時に来たように感じてとても不思議な感覚だった。

学校での習慣の違い

TRU の先生方は、授業中にコーヒーを飲む。さらに机の上に座る。日本の学校ではなかなか見ることのできない光景に初めはとても驚いた。数日すると当たり前のことのように思えてくる。コーヒーを飲むことはすぐに受け入れることができるが、机の上に座るという行為はすぐには受け入れられなかった。日本の文化では机の上に座ることは許されない行為であるからだ。私は昔、よく注意をされたものだ。また授業と授業の間の小休憩で、カナダ人はお菓子を食することが当たり前であるようだ。私にはあまりそういういった習慣がないため、食わずに過ごしていると食べないのか。と聞かれた。私は食べなくても平気なのだと言えど驚かれた。そのことに私は驚いた。カナダ人は小さい頃から、休憩時間にお菓子を食するようだ。小学校に訪問した時も児童はお菓子を食べていた。文化の違いというのを目の当たりにした。大学内にはスナックの自販機があり、そこで購入する生徒もいれば、持ってくる生徒もいた。

建築物にも違いがあった

次に、カナダの建築物は木造建築が主流のようだ。建設途中の建物の壁などが木であったことや、授業の中でも学んだためそう言える。一昔前の日本のようである。そしてカナダの一軒家は一階建ての家がほとんどである。これは、多くの土地がある国だからこそだろう。国土の狭い日本では、横に広くするよりも高くして土地を効率良く使うことのほうが考えられている。日本に住み続けているだけでは決して気付かなかったであろう、国土の違いによる考え方の違いを知ることができて良かった。

オープンな気持ちで会話をしてみる

この短期留学は、語学研修という位置づけであるが、英語力はそこまで必要だとは思わない。中学英語ができれば一通りのコミュニケーションをとることができる。それより大事なものは、相手と話すという積極的な姿勢である。カナダ人だけでなく、一般的な日本人よりも外国人のほうがコミュニケーションに積極的である。それに応える姿勢が大事だと思う。せっかく話しかけてくれているのに、こちら側が奥手になり相手の顔を見ないとか、英語に自信がないから小声になると相手は自分とは話したくないのかと勘違いをしてしまう。せっかくの機会を自分のせいで棒に振ってはいけない。外国人は明るい人が多いしユニークな人が多い。話す面白さばかりだ。英語が間違ってもいい、こちらからも話しかけるくらいの勢いを持ってコミュニケーションをしてみるといいだろう。また、日本人は思っていることを隠してしまいがちである。外国人ははっきりしているため、相手に合わせるのではなく、嫌なものは嫌ということ。これは何よりも大事である。

迷ったら、行ってみよう！

最後に、私はこの留学を迷っている人に対して、迷ったら行くべきだと言いたい。カナダの文化はインターネットで知ることができるだろう。だがその知識は、表面上のものに過ぎない。現地の人と話と結び付けて学ぶことでまた一つ違う視点ができたりするため、是非、留学に参加してほしい。楽しく文化を学ぶことができ、忘れられない貴重な思い出ができることとなる。そして今後の人生が豊かになること間違いなしであると言える。

今回の留学では、文化の違いがこんな細かなことまで違うのかと知ることができてとても面白かった。私はカナダで、もっといろいろなことを学びたかった。そしてカナダの文化に触れながら生活を続けたかった。三週間というのは、振り返るとあっという間であり、とても短いものであった。この経験は忘れることはないだろう。